

令和2年度 事業報告書



令和2年度 新型コロナウイルス感染症への対応

保健所等に対面用アクリルスクリーンを配備（令和2年4月）

県内の保健所や各市町村等に、飛沫の拡散防止を目的とした透明なアクリル製の対面用スクリーンを早期に調達し600セットを配備しました。



岡山県新型コロナウイルス感染症対策本部への協力（令和2年4月～6月）

岡山県庁に設置された「新型コロナウイルス感染症対策本部」への支援として令和2年4月23日～6月9日までの期間に支部職員延べ23名を派遣し、初期における運営補助にあたりました。

正しい手洗い・マスク着用・うがいの動画制作（令和2年4月）

正しい手洗いやマスク着用など、健康生活支援講習のプログラムを活用して、岡山シーガルズやRSK山陽放送等の協力により、啓発動画「ウイルスをブロック!」を制作しました。

制作した動画はYouTubeでの配信のほか、DVDを作成し県下の市町村等に配布しました。



差別・偏見を防止するための講習の開催（令和2年9月～）

啓発動画「ウイルスをブロック!」や日本赤十字社が制作した「新型コロナウイルスの3つの顔」「ウイルスの次にやってくるもの」などの動画を活用して、感染症による差別・偏見の防止を盛り込んだ「正しく知って、正しく恐れる」ための講習を開始し、令和2年度は地域の公民館等において14回開催しました。



岡山県クラスター対策班（OCIT）現地医療提供チームとしての活動（令和2年12月～）

岡山県から「クラスター対策班現地医療提供チーム」の指定を受け、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した医療機関及び高齢者施設等における医療支援のため、12日間、延べ15名の職員を派遣し、患者情報や時系列情報等の記録や電子化などの活動を行いました。



岡山県支部 令和2年度 重点項目

災害救護体制の整備

オンライン会議ツールを活用し、日本赤十字社中・四国各県支部と連携しながら、災害発生時の広域支援について検証を進めるとともに、受援側、応援側の視点から平時の備えについて検討する会議を複数回にわたり開催しました。



防災・減災の知識・技術の普及促進

他者との接触や3密を避けるなど感染対策に十分配慮した上で赤十字防災セミナーを開催しました。また、同セミナーには避難所での感染症対策などを学ぶ「感染症から身を守る」ための内容を新たに追加しました。



地域包括ケアの推進

コロナ禍においても高齢者の「生活不活発病」を予防するため、サロン活動などでオンラインによる健康生活支援講習を試行しました。また、地域の方々のいのちと健康、尊厳を守るための各種講習をオンラインで開催するための準備を進めました。



令和2年度 新型コロナウイルス感染症への対応 P1

岡山県支部 令和2年度 重点項目 P2

1 救護活動 P4

2 国際活動 P7

3 医療事業 P8

4 看護師養成事業 P10

5 血液事業 P11

6 救急法等の講習 P12

7 赤十字ボランティア P15

8 青少年赤十字（JRC） P16

9 広報活動 P17

10 会員の加入促進と活動資金の募集 P18

11 令和2年度一般会計歳入歳出決算概要 P20

1

救護活動

日本赤十字社が行う災害救護活動は、医療救護やこころのケア、救援物資の配分、血液製剤の供給、義援金の受付など多岐にわたります。これらの活動は、赤十字の理念に基づき日本赤十字社独自の判断で自主的に行われますが、災害救助法や災害対策基本法、国民保護法においては指定公共機関として、国や地方公共団体への協力も義務付けられています。

令和2年度は、「令和2年7月豪雨災害」に際し、新型コロナウイルスの感染が拡大する中、日赤災害医療コーディネートチームを派遣しました。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため各種行事等が中止または延期となったため、イベントでの救護など、予定していた多くの救護、訓練及び研修が実施できませんでした。

●「令和2年7月豪雨災害」における日赤災害医療コーディネートチームの派遣

7月3日から降り続いた記録的な大雨の影響により、特に被害の大きかった熊本県人吉市に設置された「人吉・球磨医療圏保健医療調整本部」に日赤災害医療コーディネートチームを派遣し、被災地域における保健医療ニーズの把握、救護班の活動調整及び関係機関との連絡調整等を行いました。

活動期間	派遣者
令和2年7月26日～8月2日	医師2名、看護師1名、薬剤師1名、支部職員1名



●救護班の編成等

災害時、ただちに被災地に出動し被災者への救護活動が行えるよう、常備救護班9個班（岡山赤十字病院8個班、岡山赤十字病院玉野分院1個班）を編成するとともに、災害対策本部要員、DMAT 要員、薬剤師、血液搬送要員等を任命し、「岡山県支部災害救護業務計画」を基本とした体制を整備しました。

また、災害時における医療ニーズを把握し、災害医療救護関係機関との救護班の活動調整等を行う日赤災害医療コーディネートチームを2チーム編成しました。

救護員の任命状況（人）

	日本赤十字社 岡山県支部	岡山赤十字病院	岡山赤十字病院 玉野分院	岡山県赤十字 血液センター
常備救護班		8個班	1個班	
医師		8	1	
看護師長		8	1	
看護師		16	2	
主事		16	2	
災害対策本部要員	15	10		9
DMAT 要員	3	30	2	
薬剤師		7		
血液搬送要員				2
日赤災害医療 コーディネーター		2		
日赤災害医療 コーディネートスタッフ	2	4		

●救護員の訓練・研修

新型コロナウイルスの感染防止のため、大規模な訓練等の実施はできませんでしたが、オンライン形式により以下の研修等を開催し、災害救護活動に備えました。

研修会名	実施日	内容
令和2年7月豪雨災害救護活動に係る日本赤十字社第5ブロック各県支部合同検証会	令和2年11月15日	災害対応の振り返りと検証
日本赤十字社第5ブロック救護業務担当者合同勉強会	令和3年2月16日	災害対応の実例から本部運営における課題等を共有

※第5ブロック支部：鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知の各県支部

●被災者の支援

県下での火災等による罹災者に対し、地区・分区を通じて救援物資及び弔慰金をお届けしました。

救援物資等配分の内訳

種類	配分基準	配分数
毛布	1人につき1枚	128枚
緊急セット	原則1世帯（4人分）につき1セット	77セット
バスタオル	1人につき1枚	149枚
弔慰金	死亡者1人につき20,000円	400,000円

罹災世帯数等

区分	世帯数
全焼	73世帯
半焼	8世帯
全壊	0世帯
避難	0世帯
その他	15世帯
計	96世帯

死亡	20人
----	-----

●義援金・救援金の受付

令和2年度における受付状況は以下のとおりです。

義援金名	件数（件）	金額(円)
東日本大震災義援金	82	11,989,890
平成28年熊本地震災害義援金	31	326,769
平成29年7月5日からの大雨災害義援金	3	205,215
平成30年7月豪雨災害義援金	173	92,192,923
令和元年8月豪雨災害義援金	9	29,504
令和元年台風第15号千葉県災害義援金	2	12,642
令和元年台風第19号災害義援金	63	1,769,919
令和2年7月豪雨災害義援金	343	42,800,876
令和3年2月福島県沖地震災害義援金	9	74,763

救援金名	件数（件）	金額(円)
無指定海外救援金	1	10
中東人道危機救援金	2	20,500
バングラデシュ南部避難民救援金	4	42,000

●災害救護用資器材の整備

災害時の救護活動に欠くことのできない資器材の整備、充実を図り、災害時に有効に活用できるよう、常に点検を行い万全を期しています。

令和2年度は感染症まん延期の救護活動に備えてマスクやガウン等の感染対策用資器材を整備したほか、赤十字業務用無線6台を整備しました。

●臨時救護の実施

新型コロナウイルスの感染防止のため、各種イベントが中止となったことにより、医師・看護師・主事等で編成した救護班やボランティアの派遣はありませんでした。

●防災教育事業「赤十字防災セミナー」の開催

災害からいのちを守るため、地域コミュニティにおける「自助」「共助」の力を高めることを目的に、平成29年度から本格的に取り組みを始めたもので、町内会・自治会等へ以下のとおり指導者を派遣しました。

令和2年度は感染症対策を徹底した上でセミナーを開催するとともに、新たな内容として「感染症から身を守る」を追加し、感染症に関する基礎的な知識の普及を図りました。

カリキュラム	内容	件数 (件)
災害エスノグラフィ	過去の大規模災害の被災者の経験談を再編集した読み物を通じて災害を追体験し、被災の具体的なイメージを理解する。	1
災害への備え (講義)	災害からいのちを守り身の安全を確保するために平時から準備すべきことを理解する。 避難所等で感染症から身を守るための基本的知識を学ぶ。	8
その他	令和2年7月豪雨災害における救護活動を紹介する。	1
計		10

2

国際活動

赤十字では、国際・国内紛争による被災者への医療や食料等の救援を実施するほか、ジュネーブ条約に基づいて、戦闘に直接参加していない負傷兵や一般市民の保護にあたっています。

また、自然災害等によって被害を受けた被災地への復興支援や防災を通じた地域の基盤づくり等に取り組んでいます。

令和2年度において岡山県支部は、以下の事業を実施しました。

●アジア・大洋州給水・衛生災害対応キット整備事業

アジア・大洋州で洪水やサイクロンなどの災害に頻繁に見舞われる国や地域における安全な飲み水の確保や清潔な簡易トイレの設置など、衛生環境を整備するための資金的援助を平成22年度以降引き続き行いました。

●インドネシア・コミュニティ防災強化及び防災教育モデル校整備事業

災害多発国であるインドネシアに対し、災害対応能力の向上や、防災教育に精通する教職員の育成のために資金的援助を引き続き行いました。

●東ティモール赤十字社救急法普及支援事業

交通事故等の発生件数が多い一方で、医療体制が整備途上である東ティモール民主共和国に対し、地域住民への救命・応急手当等に関する知識や技術の普及を目的とした資金的援助を引き続き行いました。



●「NHK 海外たすけあい」キャンペーンの実施

令和2年12月1日から25日の期間でNHKと共同で募金活動を実施しました。

名称	件数(件)	金額(円)
令和2年度(第38回)「NHK海外たすけあい」	672	7,029,968

3

医療事業

岡山赤十字病院（500床）、岡山赤十字病院玉野分院（83床）、岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホーム（100床）において、高度急性期医療をはじめ、慢性期医療から回復期まで特色ある医療事業を展開しています。

令和2年度も各施設においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けながらも公的医療機関として、また地域の安定的な医療体制を確保するため、地域医療の連携推進を図りながら、地域からの信頼に応えた安心・安全な医療を提供しました。

●岡山赤十字病院

県南東部医療圏の中核病院として、令和2年度においても救命救急センターとしての救急医療、地域がん診療拠点病院等の先進医療、基幹災害拠点病院としての災害医療・救護など、公的医療機関としての役割を担いました。

患者数（人間ドック・健診を除く）

入院	延患者数	136,400人
	1日平均	373.7人
外来	延患者数	248,746人
	1日平均	1,027.9人

新型コロナウイルス感染症については、救命救急センターに発熱外来（帰国者・接触者外来）を設置し一般外来と区分したほか、岡山県から要請を受け、入院受入協力病院として病床を確保し患者を受け入れました。

また、外来入口での手指消毒、マスク着用の呼びかけ、検温の実施や飛沫防止パネルの設置、病棟における面会制限を行ったほか、職員の健康管理の徹底、職員間の3密（密集・密接・密閉）の回避等に努めるなど、職員一丸となって取り組み続けていますが、令和2年度の患者数は、外来受診控えや手術制限等により減少しました。

また、さまざまな企業や個人の方から医療材料や食品のご支援、近隣の小学校・中学校の児童・生徒の皆さんからあたたかい応援メッセージをいただきました。



●岡山赤十字病院玉野分院

内科・リハビリテーション科・皮膚科・整形外科に加え、専門外来として呼吸器内科、循環器内科、糖尿病内科において診療を行い、岡山赤十字病院との連携により急性期及び慢性期の一貫性のある医療を提供しています。

令和2年度も、近隣の医療機関や介護施設からの紹介による入院や終末期医療を希望する患者の受け入れにもあたり、併設する老人保健施設とともに、在宅復帰を目的とした医療や介護サービスを行い在宅医療の推進にも努めました。

また、新型コロナウイルス感染症のまん延に伴い、プラスチックグローブ等の感染

防護具の装着の徹底、非接触体温計や足踏み式消毒スタンドなどの設置を進めました。

患者数（人間ドック・健診を除く）

入院	患者数	23,349人
	1日平均	64.0人
外来	患者数	14,873人
	1日平均	61.5人



●岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホーム

病状が安定した高齢者等の心身の自立を支援し、介護機能を持った包括的ケアサービスを提供する役割を担い、高齢者等の家庭復帰を目指しています。

このため、ショートステイや通所リハビリテーションを提供し、併設する居宅介護事業所での介護保険制度におけるケアマネジメントにより、家族・介護者の介護負担軽減に努め、利用者のニーズに沿ったサービス提供を行いました。

また、新型コロナウイルス感染症のまん延により面会を制限したため、パソコンを用いたオンライン面会を開始し、多くの方にご利用いただきました。

利用者数

入所	入所者数	29,760人
	1日平均	81.5人
通所	通所者数	4,982人
	1日平均	20.6人



●「赤十字健康講座」等の開催

広く県民の健康維持・増進を図ることを目的に、赤十字各施設が連携し、医師や看護師等が岡山赤十字病院で講演を行う「赤十字健康講座」、地域からの要望により医師等を派遣し講演を行う「健康講演」を毎年企画しています。

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により中止を余儀なくされた講演もありますが、感染対策を徹底し可能な範囲で開催しました。

また、学校の児童・生徒にアナフィラキシー症状（重篤なアレルギー反応）が出た場合に学校職員が対処できるよう、岡山県教育委員会と岡山赤十字病院、岡山県支部が連携して養護教諭等を対象とした「小児のためのアナフィラキシー研修」をオンラインにて開催しました。

実施状況

種別	実施回数 (回)	受講者数 (人)
赤十字健康講座	4	118
健康講演	4	73
小児のためのアナフィラキシー研修	1	80



4

看護師養成事業

岡山赤十字看護専門学校では、赤十字の理念である人道を基調とし、豊かな人間性を育み、保健・医療・福祉の分野をはじめ、災害救護の現場で活躍できる基礎的能力をもった看護実践者を育成することを教育理念としています。

この教育理念のもと、看護技術教育、看護倫理教育、医療安全教育を柱とし、恵まれた実習環境のなか、個性を尊重した教育を提供しました。

また、新型コロナウイルスの感染防止を徹底するとともに、看護技術演習方法の工夫や遠隔授業を効果的に活用した学生本位の学修機会を確保しました。

令和3年3月の看護師国家試験では、全員が合格しました。



学生数 令和3年3月31日現在

1年生	38人
2年生	44人
3年生	38人
計	120人

5

血液事業

岡山県赤十字血液センターでは、血液を提供していただける方を募集し、その血液を採取し、血液製剤として、治療を必要とする患者のため、医療機関に供給する血液事業を展開しています。採血業者及び製造販売業者としての責務である血液製剤の安全性の確保・向上及び安定供給の確保並びに献血者の保護に努め、確実な血液事業の推進に取り組んでいます。

令和2年度における岡山県の献血者数は、79,835人（対前年度比102.4%）、前年度に比べ1,899人増加しました。

献血種類別では、400mL 献血者が52,487人（対前年度比100.3%）、200mL 献血者が1,181人（対前年度比88.7%）、成分献血者が26,167人（対前年度比107.9%）でした。

また、献血ルームや献血バスにおける飛沫防止パネルの設置や除菌の徹底、密を避けるために複数回献血クラブ「ラブラッド」を活用した予約献血を呼びかけるなど、コロナ禍でも安心して献血ができる環境づくりに努めました。

性別・献血種類別献血者数

献血種類	献血者数			割合
	男	女	計	
200mL 献血	215人	966人	1,181人	1.5%
400mL 献血	39,021人	13,466人	52,487人	65.7%
血漿成分献血	11,560人	6,392人	17,952人	22.5%
血小板成分献血	7,596人	619人	8,215人	10.3%
計	58,392人	21,443人	79,835人	100.0%

年齢別献血者数

年齢	10代	20代	30代	40代	50代以上	計
献血者数	2,684人	10,370人	13,064人	22,815人	30,902人	79,835人
割合	3.4%	13.0%	16.3%	28.6%	38.7%	100.0%

献血者確保対策事業

- 普及啓発活動
- 広報活動
- 献血推進組織の育成
- 若年層献血推進対策
- 献血ルームの活性化



その他の事業

- 骨髄ドナー登録の推進
- 医療情報活動の充実
- 地域に開かれた血液センターの展開
- 特殊製剤国内自給向上対策事業



6

救急法等の講習

日常生活や災害時など急病やけがをしたとき、いつでも手を差しのべて手当をしたり、日頃から健康に気をつけて快適な生活が送れるよう、各種講習を展開しました。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により令和2年2月末から7月末までの期間は全ての講習を中止しましたが、感染防止の対策を図りながら8月から一部の講習を再開しました。ただし、接触や3密を伴う実技が含まれる各種講習については引き続き中止としました。

●救急法

病気やけがや災害から自分自身を守り、けが人や急病人を正しく救助し、医師または救急隊などに引き継ぐまでの応急手当の知識や技術を普及するため、講習を開催するとともに、地域や職場、学校などに指導員を派遣して講習を実施しました。

令和2年度については、救急員養成講習は開催しませんでした。感染防止対策を図ることのできた短期講習は8月から、基礎講習は12月から再開しました。

また、自宅や会社からでも安心して一次救命処置を学ぶ講習の受講ができるようオンライン講習の試行を重ね、令和3年度に向けた準備を行いました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
救急法	基礎講習	3	34	34
	救急員養成講習	0	0	0
	短期講習	64	1,330	
計		67	1,364	34

●水上安全法

水を活用して健康の増進を図り、水上の事故からいのちを守るための知識や技術を普及するための講習です。令和2年度は感染に留意しながら短期講習のみ実施し、救助員養成講習は開催しませんでした。

種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
水上安全法	救助員Ⅰ養成講習	0	0	0
	救助員Ⅱ養成講習	0	0	0
	短期講習	1	16	
計		1	16	0

●雪上安全法

雪を活用して健康の増進を図り、雪上の事故からいのちを守るための知識や技術を普及するための講習ですが、令和2年度は開催しませんでした。

種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
雪上安全法	救助員Ⅰ養成講習	0	0	0
計		0	0	0

●幼児安全法

子どもに起こりやすい事故の予防と応急手当の方法、病気への対応の仕方の知識や技術を普及するため、地域、職場、学校などに指導員を派遣して講習を実施しました。

令和2年度は感染防止のため対策を講じながら短期講習のみ実施し、支援員養成講習は開催しませんでした。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
幼児安全法	支援員養成講習	0	0	0
	短期講習	29	481	
	計	29	481	0

●健康生活支援講習

誰もが迎える高齢期を健やかに生きるために必要な健康増進の知識や高齢者の支援・自立に役立つ介護技術を普及するため、地域の要望により指導員を派遣しました。令和2年度は支援員養成講習は中止しましたが、感染症予防に関する講習内容を活用し、「新型コロナウイルス感染症から身を守り差別・偏見を防止する短期講習」を構成して普及を図りました。



種別			実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
健康生活支援講習	支援員養成講習		0	0	0
	短期講習	災害時高齢者生活支援講習	0	0	
		上記を除く短期講習	20	538	
		オンライン講習	1	9	
	計		21	547	0

● AED（自動体外式除細動器）貸出

県内各地で開催されるイベント等の主催者に、岡山県支部所有の AED を貸し出すことにより、心肺停止等の傷病者の救命活動に備えています。

あわせて、県民が AED に身近に触れる機会を提供することにより、支部が行う救急法等の普及促進を図り、県内各地における岡山県支部の活動への理解を求めることを目的としています。

令和2年度は計18件の貸出を実施しました。

● 健康生活支援講習を柱とした地域包括ケアの推進

超高齢社会が進むなか、自分でできることはできるだけ自分ですするという「自助」の意識の醸成と、地域コミュニティで支え合うという「互助」を実践する地域づくりが課題となっています。高齢者が可能な限り住み慣れた地域や自宅で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域ぐるみで支え合うことを「地域包括ケア」と呼びます。

令和2年度は、コロナ禍における地域づくりとして、新型コロナウイルスの感染防止に配慮した工夫や新たな視点を取り入れながら、以下の支援に取り組みました。

- サロン等でのオンライン講習試行
- 手洗い等動画を用いた感染予防、差別・偏見防止のための講習
- 筋力低下によるけがを予防するための動画制作（令和3年度完成予定）
- 地域住民に対する健康講演



赤十字ボランティア

赤十字ボランティア（赤十字奉仕団）は、赤十字が使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々が集まって結成された組織です。

会員の加入促進、救護活動、献血の推進等さまざまな支援活動や、県内各地で地域のニーズに応じた社会活動を繰り広げており、行政が推進する地域福祉の一端を担っています。

●防災ボランティアの体制整備

近年、災害救護活動の専門性がより高まっています。令和2年5月8日、「日本赤十字社岡山県支部機動奉仕団」と「岡山県赤十字救護奉仕団」を統一し、新たに「岡山赤十字災害支援奉仕団」を設立しました。

また、長期にわたる幅広い災害ニーズに対応するため、社会福祉協議会が設置する「ボランティアセンター運営委員会」に参画するとともに、「災害支援ネットワークおかやま」「岡山県災害福祉支援ネットワーク推進会議」等、県下の防災関連ボランティア団体との連携にも努めています。

●赤十字奉仕団の育成・活動推進

新型コロナウイルスの感染防止のため、大規模な研修会等の開催は見合わせましたが、それぞれ以下の活動を行いました。

種別	活動内容
地域赤十字奉仕団	●支部職員が講師となり新型コロナウイルス感染症予防に関する研修を開催 ●奉仕団員がマスクを縫製し地域の福祉施設等に贈呈
青年赤十字奉仕団	●定例会や研修会の開催 ●オンライン形態による他県との交流会 ●新型コロナウイルス感染症に留意した街頭募金活動
特殊赤十字奉仕団	●救急法等の講習普及活動 ●視覚障がい者支援のため点訳教室



8

青少年赤十字（JRC）

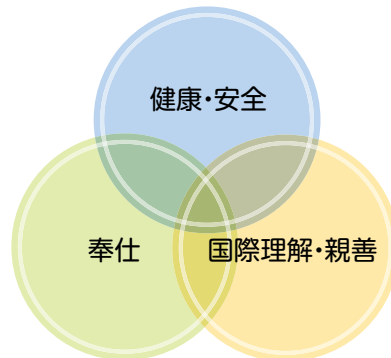
青少年赤十字（JRC）は、子どもたちが「人のいのちと健康、尊厳」を大切に
する人道的価値観を身につけ行動できるようになることを目指して、教育現場におい
て教員等が指導者となり活動を展開する事業です。

その活動は、「気づき・考え・実行する」という自主性に基づき、世界の青少年
赤十字に共通している次の3つの実践目標を掲げて青少年の発達段階や各学校の取
り組みに合わせた活動を展開しています。

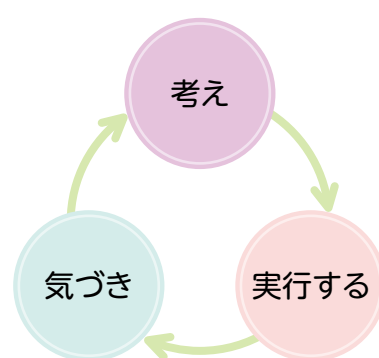
隔年で「国際理解・親善」を目的として開催している国際交流事業については
世界的な新型コロナウイルスの感染拡大を受け、令和2年11月15日にオンライン形式
により開催し、21の国と地域からの参加がありました。

岡山県からは高校生6名が参加し、新型コロナウイルスの感染者やその家族に対
する差別や偏見などの諸問題について、他県や海外の JRC メンバーと意見を交わし
ました。

青少年赤十字の実践目標



青少年赤十字の態度目標

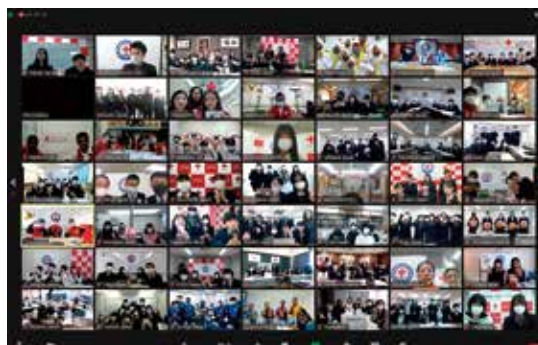


青少年赤十字の加盟状況

種別	加盟校 (園)数	児童・生徒数(人)			グループ数
		男	女	計	
幼稚園	2	127	132	259	11
保育園	30	1,395	1,333	2,728	146
小学校	48	6,138	5,723	11,861	531
中学校	31	2,837	2,851	5,688	223
高等学校	38	4,235	3,009	7,244	257
特別支援学校	4	214	121	335	59
計	153	14,946	13,169	28,115	1,227

※保育園には、こども園7園を含む

※中学校・高等学校加盟校数には、それぞれ一貫校4校を含む



赤十字の理念や活動内容、活動資金の使途について一人でも多くの方々にご理解いただけるよう、広報活動を展開しました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大によるイベントの中止が相次ぎましたが、コロナ禍においても赤十字の活動を広く伝えるため、テレビ、新聞などに取り上げられるよう報道機関への積極的なプレスリリースを行うとともに、フェイスブック、インスタグラムを活用し、より幅広い世代に向けた情報発信の推進など、以下の広報活動に取り組みました。

また、感染予防のための動画、特定の人や職業などに対する差別・偏見を防止するための映像をYouTubeへ掲載するなど、動画による情報発信にも努めました。

● 広報資材

- 広報紙「赤十字おかやま」の発行
- 地区・分区、協力者等への「赤十字 NEWS」の配布
- 県下全域でのポスター掲示
- 会員加入促進のためのリーフレット・チラシの配布
- 事業計画書・事業報告書の作成・配布

● メディア広報

- CM 放送（テレビ・ケーブルテレビ）
- プレスリリースの発信による取材・報道
- 有功会員の協賛による新聞広告
- 新聞への記事広告掲載
- フェイスブック、インスタグラム、YouTubeを活用した情報発信



● 広報イベント

企業主催イベントにおいて赤十字ブース（車両展示、パネル展示等）を出展しました。なお、感染防止に配慮し、キッズ救護服撮影は中止し、手指消毒、車内見学の人数制限、定期的な車内消毒などを実施しました。

● 医療従事者を目指す学生によるリモート演奏動画

日本赤十字社とユニバーサルミュージックによる、新型コロナウイルス感染症と闘う医療従事者への応援プロジェクト「# 最前線にエールを何度でも」に賛同した「川崎医療福祉大学ウインドオーケストラ ハートフルウインズ」の学生たちがリモート演奏を行い、岡山県支部のYouTubeにより配信しました。



会員の加入促進と活動資金の募集

岡山県支部が行う活動は、赤十字会員及び赤十字活動に賛同する方々からお寄せいただく活動資金により支えられています。

赤十字の各種活動を進めるためには、赤十字会員の増強や活動資金の安定的な確保を図る必要があります。

例年、5月の「赤十字運動月間」を中心に赤十字会員への加入勧奨を行っていますが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、活動資金の募集にも大きな影響を受けました。

このため、ダイレクトメールによる協力依頼を強化したほか、寄付つき自販機やクレジットカード決済等による活動資金の募集にも努めました。

●活動資金の件数及び実績額

令和3年3月31日現在

地区名	件数(件)	実績額(円)
岡山市地区本部	53,834	40,419,233
倉敷市地区	52,266	37,292,500
津山市地区	10,472	9,626,200
玉野市地区	10,892	8,005,900
笠岡市地区	10,388	7,633,500
井原市地区	8,818	5,723,663
総社市地区	10,811	9,509,730
高梁市地区	6,625	5,343,187
新見市地区	4,221	3,795,500
備前市地区	4,619	3,395,000
瀬戸内市地区	176	468,713
赤磐市地区	5,534	4,672,733
真庭市地区	8,336	7,104,344
美作市地区	5,439	4,345,600
浅口市地区	5,621	4,498,500
和気町分区	3,223	2,499,500
吉備中央町分区	1,462	1,276,400
早島町分区	1,062	693,100
里庄町分区	38	1,233,300
矢掛町分区	3,630	3,515,050
新庄村分区	198	163,700
鏡野町分区	2,048	1,935,000
勝央町分区	1,866	1,753,500
奈義町分区	0	0
西粟倉村分区	382	328,500
久米南町分区	1,061	847,000
美咲町分区	2,604	1,856,000
支部扱い	4,577	57,315,041
計	220,203	225,250,394

※支部扱い：企業訪問・ダイレクトメール・寄付つき自販機・クレジットカード決済等

●全国赤十字大会

令和2年5月20日に東京都渋谷区の明治神宮会館において「全国赤十字大会」の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、参会者の安全を最優先するため中止としました。

●赤十字有功章等伝達式

多額の活動資金にご協力いただいた方々や赤十字事業への功労者に対し、赤十字有功章や感謝状等の伝達を行う「日本赤十字社有功章等伝達式」は新型コロナウイルスの感染拡大により中止とし、赤十字有功章等は訪問等により伝達しました。

種別及び受章者数

種別		受章者数
日本赤十字社社長感謝状	個人	4人
	法人	13社
金色有功章	個人	7人
	法人	15社
銀色有功章	個人	17人
	法人	23社
紺綬褒章	個人	0人
	法人	0社
厚生労働大臣感謝状	個人	2人
	法人	0社

●遺贈・相続財産による寄付の推進

令和元年度より開催している「赤十字終活セミナー」は近年関心が高まっている「遺贈」や「相続財産による寄付」について学べる場として開催の要望が寄せられていましたが、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、参加者の安全を最優先するため中止としました。

令和2年度一般会計歳入歳出決算概算書

(単位：千円)

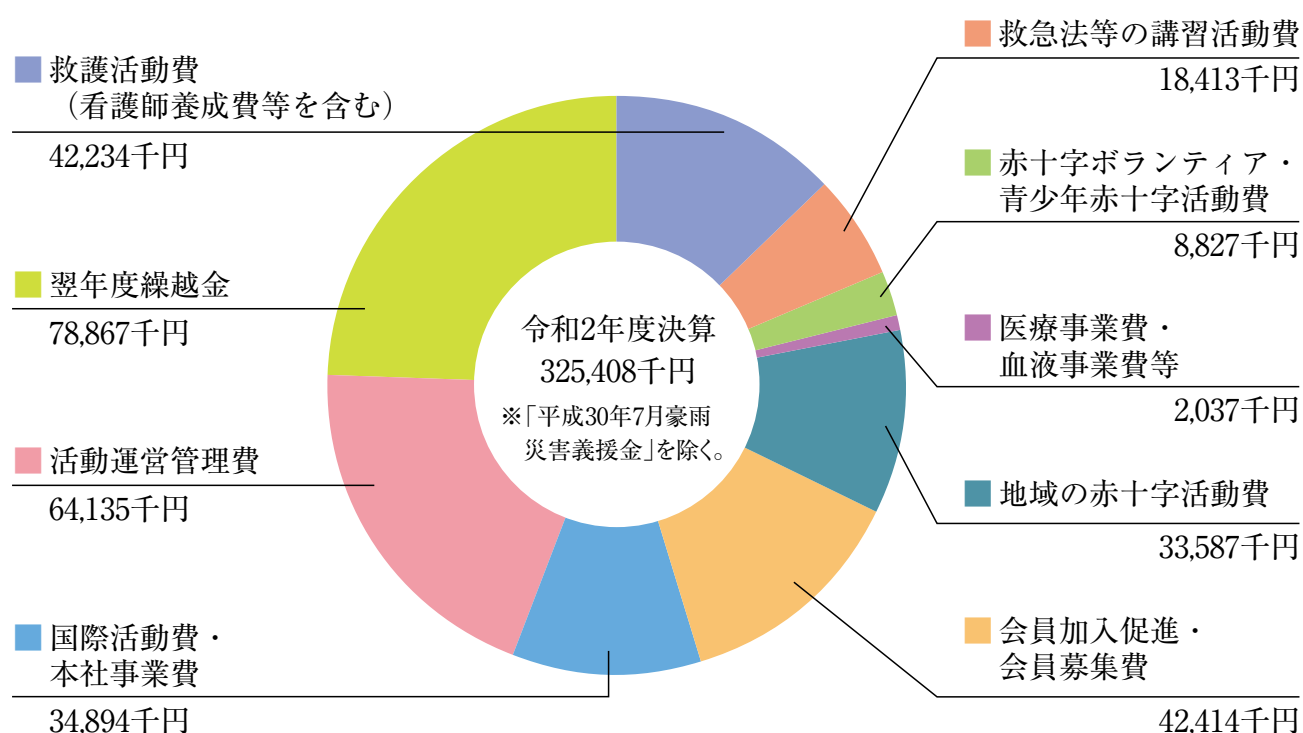
科 目	決算額
活動資金（会費及び寄付金）収入	225,250
本社交付金収入	163
資金繰入金収入等	3,982
各種講習教本代等雑収入	1,645
前年度繰越金	94,368
歳 入 計	325,408
救護活動費（看護師養成費等を含む）	42,234
救急法等の講習活動費	18,413
赤十字ボランティア・青少年赤十字活動費	8,827
医療事業費・血液事業費等	2,037
地域の赤十字活動費	33,587
会員加入促進・会員募集費	42,414
国際活動費・本社事業費	34,894
活動運営管理費	64,135
翌年度繰越金	78,867
歳 出 計	325,408

●平成30年7月豪雨災害義援金

(単位：千円)

受付額（令和2年度）	92,193	※
岡山県災害義援金配分委員会への送金額	96,767	
（内訳） 令和元年度受付分	14,292	
令和2年度受付分	82,475	※

※差額9,718千円は令和3年度に送金予定



名 簿

日本赤十字社役員名簿（岡山県支部選出）

令和3年3月31日現在

役職名	氏名	公職名	就任年月日
理事	中島 博	岡山県経済団体連絡協議会 座長	平成22年4月1日
代議員	末長 範彦	岡山トヨペット株式会社 代表取締役会長	平成18年3月1日
代議員	中島 博	岡山県経済団体連絡協議会 座長	平成22年2月14日
代議員	松田 久	岡山商工会議所 会頭・両備ホールディングス株式会社 取締役副会長	平成25年2月14日
代議員	宮長 雅人	株式会社中国銀行 取締役会長	平成28年2月14日
代議員	松山 正春	岡山県医師会 会長	平成31年2月14日
参与	相沢 八郎	元日本赤十字社岡山県支部 事務局長	平成3年4月1日

日本赤十字社岡山県支部役員名簿

令和3年3月31日現在

役職名	氏名	公職名	就任年月日
支部長	伊原木 隆太	岡山県知事	平成24年11月12日
副支部長	中島 博	岡山県経済団体連絡協議会 座長	平成22年1月23日
副支部長	片岡 聡一	岡山県市長会 会長・総社市長	令和元年6月6日
監査委員	宮崎 孝司	元川上町長	平成19年1月23日
監査委員	平松 卓雄	前岡山県社会福祉協議会 常務理事	平成30年10月20日
参与	西嶋 康浩	岡山県保健福祉部長	令和2年8月1日
参与	佐藤 昌之	岡山県保健福祉部次長	令和2年4月1日

日本赤十字社岡山県支部評議員名簿

令和3年3月31日現在

No.	氏名	選出地区	公職名	就任年月日
1	大森 雅夫	岡山市	岡山市長	平成25年10月9日
2	塩見 楨子	〃	岡山市連合婦人会 会長	平成25年4月1日
3	内田 通子	〃	岡山市社会福祉協議会 会長	平成22年10月26日
4	藤原 繁利	〃	岡山市社会福祉協議会 副会長	平成29年8月14日
5	伊東 香織	倉敷市	倉敷市長	平成20年5月19日
6	中桐 泰	〃	倉敷市社会福祉協議会 会長	平成29年4月1日
7	内田 浩二	〃	倉敷市社会福祉協議会 副会長	令和2年1月18日
8	土屋 紀子	〃	倉敷市婦人協議会 会長	平成30年5月29日
9	谷口 圭三	津山市	津山市長	平成30年3月12日
10	黒田 晋	玉野市	玉野市長	平成18年1月11日
11	小林 嘉文	笠岡市	笠岡市長	平成28年4月24日
12	大舌 勲	井原市	井原市長	平成30年9月16日
13	片岡 聡一	総社市	総社市長	平成19年12月4日
14	近藤 隆則	高梁市	高梁市長	平成21年1月16日
15	戎 斉	新見市	新見市長	令和2年12月23日
16	田原 隆雄	備前市	備前市長	平成29年4月24日
17	武久 顕也	瀬戸内市	瀬戸内市長	平成21年7月21日
18	友實 武則	赤磐市	赤磐市長	平成25年4月17日
19	太田 昇	真庭市	真庭市長	平成25年4月24日
20	萩原 誠司	美作市	美作市長	平成26年3月30日
21	栗山 康彦	浅口市	浅口市長	平成22年4月23日
22	山本 雅則	備前	吉備中央町長	平成24年10月24日
23	草加 信義	〃	和気町長	平成30年4月16日
24	中川 真寿男	備中	早島町長	平成27年8月28日
25	加藤 泰久	〃	里庄町長	平成30年2月5日
26	山野 通彦	〃	矢掛町長	平成18年6月29日
27	小倉 博俊	美作	新庄村長	平成26年9月8日
28	青野 高陽	〃	美咲町長	平成30年12月9日
29	片山 篤	〃	久米南町長	平成28年7月24日
30	山崎 親男	〃	鏡野町長	平成19年2月14日
31	水嶋 淳治	〃	勝央町長	平成23年9月12日
32	奥 正親	〃	奈義町長	平成31年2月15日
33	青木 秀樹	〃	西粟倉村長	平成23年9月12日
34	松田 久	支部長	岡山商工会議所 会頭・両備ホールディングス株式会社 取締役副会長	平成25年2月14日
35	松田 正己	〃	株式会社山陽新聞社 代表取締役社長	平成25年2月14日
36	岡崎 彬	〃	岡山ガス株式会社 代表取締役会長	平成13年2月14日
37	桑田 茂	〃	RSK山陽放送株式会社 代表取締役社長	平成29年6月29日
38	大本 万平	〃	株式会社大本組 代表取締役社長	平成25年2月14日
39	金谷 征正	〃	岡山県商工会連合会 会長	平成30年5月30日
40	大西 泰子	〃	岡山県婦人協議会 会長	平成30年5月28日
41	梶原 美砂子	〃	岡山県商工会議所女性会連合会 特別顧問	平成10年2月14日

地域赤十字奉仕団名簿

令和3年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	分団数	班数	団員数(人)		
							男	女	計
1	岡山市赤十字奉仕団	昭和21年12月6日	塩見 楨子	平成25年4月1日	35	466	0	6,766	6,766
2	岡山市御津赤十字奉仕団	昭和28年5月1日	加藤 恵子	平成8年4月1日	1	6	1	140	141
3	倉敷市倉敷赤十字奉仕団	昭和30年4月1日	大矢 禎子	平成19年4月1日	5	15	0	345	345
4	倉敷市児島赤十字奉仕団	平成11年4月1日	中村 榮子	平成31年4月1日	0	6	0	100	100
5	倉敷市玉島赤十字奉仕団	昭和31年4月1日	瀧澤 英子	平成19年4月1日	6	0	0	100	100
6	倉敷市真備赤十字奉仕団	昭和40年5月1日	松王 資子	平成28年4月1日	1	4	0	88	88
7	津山市赤十字奉仕団	昭和39年5月1日	有岡 恵子	平成16年4月1日	0	0	0	29	29
8	玉野市赤十字奉仕団	昭和32年4月1日	(選出手続中)		11	6	66	97	163
9	笠岡市赤十字奉仕団	昭和42年4月1日	吉岡 祥子	平成27年4月25日	4	4	0	159	159
10	井原市赤十字奉仕団	昭和32年1月1日	三宅 富美子	令和2年4月1日	0	6	0	3,116	3,116
11	総社市赤十字奉仕団	昭和32年4月10日	山口 久子	平成22年6月18日	11	0	12	775	787
12	高梁市赤十字奉仕団	昭和30年4月1日	田村 順子	平成30年4月27日	3	0	0	240	240
13	高梁市有漢町赤十字奉仕団	昭和31年5月21日	佐分利 睦子	平成30年5月27日	0	0	3	33	36
14	高梁市成羽町赤十字奉仕団	昭和38年9月6日	那須 閑子	令和2年4月1日	1	4	0	105	105
15	高梁市川上町赤十字奉仕団	昭和44年10月6日	中山 美江	平成22年5月7日	1	9	7	91	98
16	新見市赤十字奉仕団	昭和31年12月1日	池永 繁子	平成22年4月1日	0	0	0	95	95
17	新見市大佐赤十字奉仕団	平成14年12月17日	平田 国子	平成19年4月26日	0	0	7	27	34
18	新見市神郷赤十字奉仕団	平成19年4月1日	杉本 千恵子	令和2年4月1日	1	1	1	92	93
19	新見市哲多町赤十字奉仕団	昭和51年2月20日	小川 洋子	令和2年7月16日	1	3	5	44	49
20	新見市哲西町赤十字奉仕団	平成14年4月22日	小田 清	平成21年6月16日	0	0	31	58	89
21	備前市赤十字奉仕団	平成12年7月12日	立川 涼子	平成31年4月1日	8	0	0	134	134
22	赤磐市赤坂赤十字奉仕団	昭和39年4月1日	小西 清美	平成22年4月1日	1	0	0	80	80
23	真庭市赤十字奉仕団	昭和43年4月1日	國本 幸恵	平成23年7月29日	3	0	3	120	123
24	美作市勝田赤十字奉仕団	平成18年4月1日	松本 基	平成28年12月1日	1	16	13	3	16
25	美作市美作赤十字奉仕団	昭和39年9月1日	栗井 澄子	平成26年6月1日	0	0	2	9	11
26	美作市作東赤十字奉仕団	平成3年4月1日	山本 文子	平成15年4月1日	1	2	0	58	58
27	浅口市金光赤十字奉仕団	昭和39年4月1日	山田 直子	平成20年4月1日	12	21	0	108	108
28	浅口市鴨方赤十字奉仕団	昭和38年5月6日	筒井 由紀子	平成28年4月1日	0	0	0	103	103
29	和気町赤十字奉仕団	昭和31年6月1日	小金谷 香代子	平成26年4月1日	1	1	0	30	30
30	早島町赤十字奉仕団	昭和46年12月20日	河田 智子	平成18年4月1日	1	0	0	95	95
31	里庄町赤十字奉仕団	平成14年1月8日	山田 恵津子	平成20年4月1日	1	19	0	857	857
32	勝央町赤十字奉仕団	昭和28年4月10日	笠尾 和子	令和元年12月3日	1	1	14	20	34
33	美咲町赤十字奉仕団	昭和32年9月1日	大西 泰子	平成17年3月22日	0	3	0	552	552
34	久米南町赤十字奉仕団	昭和59年4月1日	片山 朋子	平成30年4月1日	3	3	0	177	177
合計					114	596	165	14,846	15,011

青年赤十字奉仕団名簿

令和3年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	団員数(人)		
					男	女	計
1	岡山県青年赤十字奉仕団	昭和28年5月1日	伊藤 友介	平成31年4月12日	15	12	27
2	岡山赤十字看護専門学校学生奉仕団	昭和46年2月16日	仁科 模絵	令和2年10月16日	5	79	84
3	川崎医療福祉大学学生赤十字奉仕団 R.C.Y.Will	平成3年12月15日	谷 菜月	令和2年11月13日	2	44	46
合計					22	135	157

特殊赤十字奉仕団名簿

令和3年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	団員数(人)		
					男	女	計
1	岡山県赤十字点訳奉仕団	昭和42年7月15日	宇津木 順一郎	昭和46年7月15日	7	24	31
2	日本赤十字社岡山県支部安全法奉仕団	平成9年6月1日	白木 聡一	平成30年4月21日	45	48	93
3	岡山ライフセービング赤十字奉仕団	平成11年6月8日	熊澤 一彦	平成30年5月19日	34	8	42
4	岡山県青少年赤十字賛助奉仕団	平成16年4月20日	嶋井 正博	平成30年4月24日	25	3	28
5	岡山赤十字災害支援奉仕団	令和2年5月8日	山本 松美	令和2年5月8日	66	30	96
合計					177	113	290

岡山県赤十字有功会役員名簿

令和3年3月31日現在

役職名	氏名	公職名
名誉会長	池田 厚子	
会長	末長 範彦	岡山トヨペット株式会社 代表取締役会長
副会長	松田 久	両備ホールディングス株式会社 取締役副会長
副会長	永山 久夫	岡山プラザホテル株式会社 代表取締役社長
副会長	恵谷 龍二	株式会社ケイコーポレーション 代表取締役社長
会計監査	平田 啓子	西日本株式会社 代表取締役
会計監査	平松 晃弘	平松エンタープライズ株式会社 代表取締役社長
理事	全本 親民	株式会社ソフィア 代表取締役
理事	高木 晶悟	株式会社トマト銀行 取締役社長
理事	千原 行喜	岡山県遊技業協同組合 理事長
理事	遠藤 俊夫	岡山県貨物運送株式会社 代表取締役社長
理事	桑田 茂	R S K 山陽放送株式会社 代表取締役社長
理事	大本 万平	株式会社大本組 代表取締役社長
理事	高田 美紀子	岡山商工会議所女性会 会長
理事	尾崎 茂	菅公学生服株式会社 代表取締役社長
理事	原田 育秀	株式会社中国銀行 代表取締役専務
顧問	榊原 宣	心臓病センター榊原病院 名誉理事長
顧問	岡崎 彬	岡山ガス株式会社 代表取締役会長
顧問	大原 謙一郎	公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 代表理事理事長
顧問	木住 勝美	株式会社天満屋 代表取締役会長
顧問	松田 正己	株式会社山陽新聞社 代表取締役社長
幹事	上原 毅	日本赤十字社岡山県支部 事務局長



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

岡山県支部